

市誌編さん事業がスタート！

「高浜市誌 第二巻」の編さんから約40年。今年度から市誌編さん事業がスタート。昨年11月には「市誌編さん委員会」が発足し、編さんの一歩を踏み出しました。

この取り組みのねらいなどを、担当職員や市誌編さん委員の皆さんに聞きました！



市誌編さん委員の皆さん、市長、教育長

□どうして新しい市誌を作る必要があるの？

昭和51年(1976年)に「高浜市誌」が発行されてから約40年が経過。この間、土地区画整理事業などに伴う宅地化の進行、人口の大幅な増加、道路交通網や景観の整備、市民が主体となったまちづくりの推進など、市の状況は大きく変化し、新たな歴史が積み重ねられてきました。しかし、まちのあゆみを知ることができる貴重な資料の保存や、人々のなかにある記憶を記録にとどめる作業は十分に行われているとはいえ、市民の共有財産である資料などの散逸・消失を防ぐことは大きな課題となっています。

これまで高浜が歩んできた歴史や人々の記憶を知り、市の有形・無形の資料を整理して後世へ伝えるとともに、今を生きる私たち、そして将来のまちづくりにいかしていくことを目的として、新たな市誌の編さんが始まりました。

□どのような方針で編さんするの？

「市民と共につむぐ・つなぐ」をコンセプトに、人々の暮らしぶりや、市民団体・事業者などが時代のなかで果たしてきた役割についても触れるなど、行政史に偏ることなく、幅広い観点からまとめます。

①市制施行以降のあゆみを重点的にまとめます

- ・「高浜町誌」「高浜市誌」「高浜市誌資料」に収められていない、市制施行[昭和45年(1970年)]以降の高浜市のあゆみを重点的にまとめます。

②まちのあゆみをわかりやすく、活用しやすい形でまとめます

- ・子どもから高齢者まで、幅広い年代の市民が「読んでみたい」「活用したい」と思えるよう、写真や図などのビジュアル資料を多用するとともに、わかりやすく、親しみやすい表現でまとめます。
- ・Web上での公開も意識して、編さんを進めます。

③資料などが散逸・消失しないよう、整理・保存を進めます

- ・まちのあゆみを知ることができる各種資料や、人々の中にあるまちの記憶が失われてしまわないよう、編さん過程で得られた資料などは、今を生きる市民や将来の市民が活用できるよう、体系的な整理・保存を進めます。

④「たかハマ大好き」「住んでいるまちをよりよくなりたい」の想いを高めていきます

- ・市の広報誌をとおして情報発信を定期的に行うほか、中間報告会を開催するなど、編さん経過の紹介や成果をお知らせすることで、まちへの興味・関心を高めていきます。
- ・「タカハマ！まるごと宝箱」事業などと連動し、資料の掘りおこしや編集・普及活動を市民の皆さんとともにやり、まちづくりの原動力となるまちへの愛着・誇りの高まりにつなげます。



新しいことを知って楽しい！！

1枚の写真からさまざまな記憶が掘りおこされます。

みなさん、旧高浜港駅舎を憶えていますか？

